

## 令和元年度第1回高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議・ 高知県ICNネットワークの会の要旨

日時：令和元年11月25日（月）18:30～19:40

場所：高知共済会館 3階「藤」

出席者：ネットワーク委員10名、ICNメンバー7名

### 議事

#### （1）令和元年度高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業について

<説明（事務局）>

- ①高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議
  - ・定例会として年間2回開催し、必要時には臨時会議を開催する。
- ②高知県ICNネットワークの会
  - ・定例会として年間2回開催し、必要時には臨時会議を開催する。
- ③エリアネットワーク事業
- ④高知県医療関連感染対策相談対応事業
  - ・病院事務長連絡会等で事業の概要説明やパンフレットの配布をし、周知に努めた。
  - ・4月に1件の相談があり、実地支援は該当なかった。
- ⑤高知県医療関連感染対策研修会
  - ・10月13日に「インバウンド増加や大規模イベント時に警戒すべき感染症を中心とした話題」と題して、国立感染症研究所感染症疫学センターの砂川富正先生にご講演いただいた。今年度は開催案内を介護老人保健施設、介護老人福祉施設にも送付し、全体で179名の参加があった。

#### （2）エリアネットワーク活動について

<報告>

- ①安芸エリア（安芸福祉保健所）
  - ・1回目の合同カンファレンスは、結核と細菌検査・抗菌薬についてで、5月31日に実施し、参加者は約40名だった。2回目は感染性胃腸炎の検査と治療薬についてで、10月11日に実施し、参加者は約30名だった。3回目はインフルエンザについてで、12月6日に実施する予定。
  - ・研修会の打ち合わせを9月12日、18日、10月1日、30日に行い、11月1日に研修会を開催した。対象は病院及び診療所で、川野上ICNに標準予防策・感染経路別予防策についての講義をしていただき、実技としてモレーンコーポレーション株式会社に、院内感染対策ゲーム型教育ツールを用いた个人防护服等の選択について実施していただいた。

（川野上ICN）

- ・参加者はすごく楽しそうに研修に参加していた。物品とお金と対策の関係性がゲームを通して理解でき、おもしろかったという意見をもらえた。

<委員からの質問・意見等>

Q：(北村会長) 研修会にメーカーが入っても行政は大丈夫なのか。

A：(福永委員) 基本的に営利目的でなければ構わない。共催の場合は規定があるので、そこをクリアする必要はあるが、事前に相談していただければ、共催か、後援か、協力か、何らかの形をとらせていただく。

②中央東エリア（中央東福祉保健所）

- ・6月に昨年度の振り返りと今年度の事業についての検討会を実施し、取組方針を決定した。研修会は、薬剤耐性菌対策をテーマとし、講義とグループワークの形式で開催した。9月は医療機関の職員を対象とした研修とし、58名の出席があった。介護施設対象の研修も実施してほしいとの要望があったので、11月には高齢者施設の職員等を対象として開催し、35名の出席があった。
- ・中央東エリアの医療機関の感染対策担当者の連絡先を名簿化し、共有を行った。現在44機関と連携がとれており、今後はさらなる連携の輪の構築に加え、各機関から意見が出しやすい環境整備をしていきたい。

(武内委員)

- ・研修を実施するにあたり、急性期病院で必要なこと、療養型の病院で必要なこと、施設で必要なことを明らかにすることに苦労した。

③高知市エリア（高知市保健所）

- ・検討会を6月27日、11月1日に開催し、研修会の日程や内容について話し合った。研修会は11月23日に、高知市内の入所サービスを実施している高齢者施設、障害者施設、児童福祉施設の職員を対象に開催し、参加者は96名だった。本年度は講義、実技、グループワークを行い、非常に好評だった印象。来年の2月に3回目の検討会を行い、研修会の振り返りや次年度の計画について話し合う予定。

(西内委員)

- ・少人数のグループに分かれており、積極的に参加できる形で良かった。

(森田 I C N)

- ・少人数なので、発言しやすいという意見や、15分間の実技なので、集中力が続き、頭に残りやすいという意見をいただいた。

(成瀬 I C N)

- ・分かりやすく指導するために動画を用いたが、一部動画流れないアクシデントがあったので、事前にチェックをしていれば良かった。

(宮崎 I C N)

- ・参加者は、施設の代表や感染委員の方が多かった。今回の研修を自施設へ持ち帰って伝達講習をしたいという意見があった。

④中央西エリア（中央西福祉保健所）

- ・検討会を9月4日に開催し、講習会の内容について検討を行った。講習会は11

月 30 日に、標準予防策の考え方に基づいた医療関連感染対策に関する意見交換及び講義という内容で開催する予定。中央西エリアからは 30 名、須崎エリアからは 21 名の参加予定となっている。顔の見える関係づくりを推進するために、グループワークを取り入れた講習会を計画している。

⑤須崎エリア（須崎福祉保健所）

- ・中央西エリアと同じ

⑥幡多エリア（幡多福祉保健所）

- ・これまで老健施設等を対象に研修会を行っており、老健施設等に研修会開催のニーズ調査をした結果、開催を希望する施設が 21 施設の中の 20 施設だった。このニーズを分析し、高知県立幡多けんみん病院等とも相談を行いながら、ニーズにふさわしい研修会を開催したい。

（川村委員）

- ・研修会はニーズに合わせて、座学と実技という形で考えていきたい。
- ・合同カンファレンスに幡多福祉保健所職員も参加してくれるようになり、現場が何に悩んでいるのかを把握してもらえることができ、良かった。
- ・例年、インフルエンザやノロウイルスが流行したときの面会制限でスタッフが苦勞している。今年度は幡多医師会にも協力いただき、面会制限や体調確認の意義の周知を図る予定。

（3）高知県医療関連感染対策相談対応事業について

<説明（事務局）>

- ・相談対応事業の手順の内容は、昨年度から変更ない。
- ・相談窓口については、ICNの担当者と保健所及び医事薬務課の担当者が変更になっている。中央東福祉保健所の電話番号についても変更となった。
- ・今年度の相談対応の実績としては、4月に高知市エリアの病院からCRE保菌者の対応についての相談があった。CRE検出患者の隔離解除の基準案について、ICNの方に回答をお示しいただいた。

（4）医療関連感染対策Q & Aについて

<説明（事務局）>

- ・CRE検出患者の隔離解除に関する相談について、相談区分を耐性菌対策に分類し、タイトルを、「CRE検出患者の隔離解除」とした。この形で医療関連感染対策Q & Aとしてホームページにアップしてよろしいか。
- ⇒異議なし

（5）その他

<説明（事務局）>

①災害時における医療関連感染対策について

- ・東北大学大学院の感染対策マニュアルを、地域で訓練時に使用していただき、避難所の備品の整備等の参考にしていただければと考えている。マニュアルを使用するなかで、高知県独自のものを作成すべきだという意見があれば、再度、ネットワーク会議で検討させていただきたい。

<委員からの質問・意見等>

(川村委員)

- ・県の避難所運営マニュアルを見ると、備蓄品の案が出ているが、個数や内容の見直しが必要だと思う。避難所の規模にもよると思うが、大きな避難所であれば個数が全然足りないし、段ボールベッド等についても記載がない。

(事務局)

- ・避難所運営マニュアルの改正時に、医事薬務課から意見を挙げていきたい。
- ・訓練等で東北大学大学院の感染対策マニュアルを使っただけで、避難所に共通して不備な点は何かを検討いただきたい。消毒液等の物品の確保対策を市町村とどう進めていくのかについても保健所を交えて議論を深めていただきたい。

Q：(北村会長) 避難所運営マニュアルについて医師会としてはどうか。

A：(久委員) 避難所については、地域の医療者に要請をすることになっており、マニュアルはあるが、具体的な方法までは決まっていない。

- 東北大学大学院の感染対策マニュアルを訓練時に使用する。
- 事務局は、次回の避難所運営マニュアルの改定の際に感染対策について意見を出す。

<説明(事務局)>

②AMR対策について

- ・来年度の県の医療関連感染対策研修会のテーマを、AMR対策としてはどうかと考えている。講師の案としては、三重県の田辺正樹先生、AMR臨床リファレンスセンターの具芳明先生の推薦の意見をいただいている。

<委員からの質問・意見等>

(川村委員)

- ・講師の案として、静岡がんセンターの倉井先生、AMR臨床リファレンスセンターの大曲先生を推薦する。

(武内委員)

- ・研修会の目的や対象、参加者に研修会参加前後でどう変わってもらいたいかイメージできるような研修会にできたら良い。

Q：(北村会長) 厚生労働省2020年度概算要求の、抗菌薬適正使用推進モデル事業について何か情報はあるか。

A：(事務局) 今回、持ち合わせていないので後日調べて回答させていただく。

- 研修会の目的・対象等を明確にしながらテーマや講師の選定を行う。
- 事務局は、抗菌薬適正使用推進モデル事業についての情報を後日回答する。

## 連絡事項

Q：(久委員) 高齢のCRE患者を個室で隔離するとADLが低下する。マニュアルに沿って個室対応としているが、適切な防護服をつける等してリハビリすることは可能か。

A：(森田ICN) インフルエンザやノロウイルスも個室隔離になる。臨床症状が落ち着いていれば、時間帯等を考慮し、他の人と接触しないように配慮してできるだけリハビリをする等、状況判断をしながら対応している。

(北村会長) CREの検出部位によっても違う。経路別予防策を徹底して、適切な管理の下でリハビリを実施する。

(有瀬副会長) 基本は職員の手洗いなので個室隔離を意識しすぎなくても良いと思う。リハビリしていただいたほうが患者さんのためにもなる。

(武内委員) 病院の特徴や患者さんの背景等を考慮してどう対応するのかを検討することが必要。

### <説明(事務局)>

・来年度相談対応事業のパンフレットの増刷を考えている。現在、事務局で修正を考えている点はICNの方々の写真と保健所の連絡先の2点。その他の変更したい点と、記載内容の検討やパンフレットの案の作成をどう進めるかについて意見を伺いたい。

Q：(北村会長) 現在は相談対応に特化したパンフレットだが、地域支援ネットワーク事業全体の内容としたらどうか。

A：(川村委員) 賛成。相談をする際にどこを見たら良いかということも文言では出ているが、イラストの方が分かりやすい。

Q：(北村会長) 前は川村委員に全体をまとめてもらって、パンフレットを作成した経緯があるが、どうか。

A：(川村委員) 承知した。

➤ 川村委員を中心にパンフレットのたたき台を作成していただく。

## ネットワーク会議終了後

(有瀬副会長、森田ICN)

・相談対応事業の対象に施設も含めてもらえないか。

事務局よりネットワーク会議委員、ICNメンバーにメーリングリストで相談対応事業の対象に施設を含めることについて意見を求めた。

⇒異議なし

➤ 相談対応事業の対象に高齢者福祉施設・児童養護施設・障がい者福祉施設を含める。相談スキームや様式は、当面の間現状のままとする。